

ネットワークプレーヤー マネージメントソフトウェア

NSP-1 モニタリングツール 取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

BZNP-D1 Version 2.10 and Later

商標について

- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他、本書に登場するシステム名、製品名、会社名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では、®、™ マークは明記していません。

著作権について

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いません。

万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

このソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。

このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

このマニュアルに記載されている事柄の著作権は当社にあり、説明内容は機器購入者の使用を目的としています。従って、当社の許可なしに無断で複写したり、説明内容（操作、保守等）と異なる目的で本マニュアルを使用することを禁止します。

目次

第 1 章 概要

NSP-1 モニタリングツールの概要.....	4
NSP-1 モニタリングツールの機能.....	4
操作ウィンドウ.....	6
NSP-1 ステータス監視ウィンドウ.....	6
NSP-1 再生結果ウィンドウ.....	8

第 2 章 起動と終了

NSP-1 モニタリングツールを起動する.....	12
NSP-1 モニタリングツールを終了する.....	12

第 3 章 日常の操作

システムを監視する.....	13
エラー情報を検索する.....	13
NSP-1 の詳細なステータス情報を確認する.....	14
手動で NSP-1 からステータス情報を取得する.....	14
エラーの履歴を確認する.....	15
NSP-1 の再生結果を確認する.....	15
エラー情報を検索する.....	16
手動で NSP-1 から再生結果を取得する.....	16
再生結果を別ファイルとして書き出す.....	17
不要な再生結果のデータを削除する.....	17
NSP-1 の設定画面を開く.....	18

第 4 章 設定

ライセンスを登録する.....	20
管理を行う NSP-1 の情報を読み込む.....	20
NSP-1 モニタリングツールの環境設定を行う.....	21
アラーム通知に関する設定を行う.....	23

概要

第 1 章

NSP-1 モニタリングツールの概要

NSP-1 モニタリングツールは、ソニー ネットワークプレーヤー マネージメントソフトウェア BZNP-D1 に含まれています。BZNP-D1 は、ネットワークを通じてコンテンツをネットワークプレーヤー NSP-1 に送信し、店内での商品説明や街頭での広告を再生するシステムを管理するソフトウェアで、NSP-1 モニタリングツールは各 NSP-1 の状態の監視や再生結果の確認を行うために使用されます。NSP-1 モニタリングツールは、通常、BZNP-D1 のメインのソフトウェアと同じ PC にインストールして使用し、システム内の各 NSP-1 と定期的に通信を行って状態の監視や再生結果の確認を行います。運用の方法によっては、ネットワーク上の別の PC で使用することもできます。

ご注意

- NSP-1 モニタリングツールをお使いいただくためには、BZNP-D1(NSP-1 を 10 台まで管理できる有償ソフトウェア) と、BZNP-DP50 のライセンスを少なくとも 1 つご購入いただく必要があります。
- BZNP-D1 のメインのソフトウェアと NSP-1 モニタリングツールを同一の PC 上で同時に使用することはお勧めできません。特に、NSP-1 から再生結果を取得する操作は PC に負荷がかかるため、BZNP-D1 の運用中は行わないようにしてください。
BZNP-D1 の運用中に NSP-1 から再生結果を取得する必要がある場合は、NSP-1 モニタリングツールを別の PC でお使いになることをお勧めします。

各ソフトウェアやツールは、インストール時に表示される、付属の使用許諾書による契約にもとづき、それぞれ 1 台の PC 上に限って使用することができます。

NSP-1 モニタリングツールの機能

NSP-1 モニタリングツールは、BZNP-D1 のメインのソフトウェアで登録した NSP-1 に対して、次の項目を監視、確認できます。

通常の運用では自動で定期的に NSP-1 から情報を取得しますが、必要な場合は手動で情報を取得することもできます。

NSP-1 のステータスの監視

各 NSP-1 の現在の状態を監視するために使用します。一覧表で表示され、情報を取得するたびに更新されます。

- 各 NSP-1 との通信の状態
- 各 NSP-1 で再生されている一日のスケジュールやプレイリストとその再生の状態
- 各 NSP-1 のハードウェアの状態とハードディスクの空き容量

過去に発生したエラーの履歴を表示させ、確認することもできます。

NSP-1 で行った再生結果の確認

各 NSP-1 に記録されている再生結果のデータを取得し、過去に行われた再生とその結果を確認することができます。

- 選択した NSP-1 での再生結果
一ヶ月単位でカレンダー上に表示されます。
- カレンダー上で選択した日に再生が行われた各プレイリストの開始、終了時刻と再生結果、繰り返し再生を行った場合はその回数
- カレンダー上で選択した日に、各レイヤー上で再生が行われた素材と開始、終了時刻、再生結果
- カレンダーで選択した日に行われた制御の結果

ご注意

工場出荷時の初期状態の NSP-1 は、再生結果を記録する設定になっていません。再生結果の確認を行うには、NSP-1 のユーザー設定画面で、再生結果を保存するように設定を変更してください。

また NSP-1 モニタリングツールのほうも、初期状態では、自動的に再生結果のデータを NSP-1 から取得するようには

設定されていません。環境設定ダイアログボックスでデータの自動取得に関する設定を行ってください。

- ◆ NSP-1 の設定については、NSP-1 の取扱説明書をお読みください。
環境設定について詳しくは、「NSP-1 モニタリングツールの環境設定を行う」(21 ページ)をご覧ください。

取得した再生結果のデータは、すべて CSV(Comma Separated Values) という、データの各項目がコンマ(,)で区切られたテキストファイルとして保存されます。Microsoft Excel など、他のアプリケーションに表として読み込んで、印刷やデータ処理を行うことができます。

- ◆ 再生結果のデータについて詳しくは、「再生結果のデータ保存について」(22 ページ)をご覧ください。

NSP-1 モニタリングツールには、この他に NSP-1 モニタリングツール自体の設定の機能などがあります。

操作ウィンドウ

NSP-1 ステータス監視ウィンドウ

NSP-1 モニタリングツールを起動すると、下図のような NSP-1 ステータス監視ウィンドウが表示されます。ここでは、NSP-1 のステータスが表示されます。リストの各欄は、境界をマウスでドラッグすることで幅を調整したり、非表示にしたりすることができます。非表示にした欄がある境界部分をダブルクリックすると、非表示となっていた欄が表示されるようになります。

ヒント

NSP-1 ステータス監視ウィンドウに情報が何も表示されない場合は、NSP-1 モニタリングツールをお使いいただくために必要な、BZNP-D1 と BZNP-DP50 のライセンスを登録し、NSP-1 の設定情報を読み込む必要があります。

- ◆ ライセンスを登録する方法については、「ライセンスを登録する」(20 ページ)をご覧ください。
NSP-1 の設定情報については、「管理を行う NSP-1 の情報を読み込む」(20 ページ)をご覧ください。

No.	ネットワーク	IPアドレス	名称	グループ	再生	一日のスケジュール	プレイリスト	機器	残量
1		192.168.0.1	Tokyo-1	Japan Tokyo					
2		192.168.0.2	Tokyo-2	Japan Tokyo					
3		192.168.0.3	Tokyo-3	Japan Tokyo					
4		192.168.0.4	Tokyo-4	Japan Tokyo					
5		192.168.0.5	Tokyo-5	Japan Tokyo					
6		192.168.0.6	Aichi-1	Japan Aichi					
7		192.168.0.7	Aichi-2	Japan Aichi					
8		192.168.0.8	Aichi-3	Japan Aichi					
9		192.168.0.9	Aichi-4	Japan Aichi					
10		192.168.0.10	Aichi-5	Japan Aichi					

① メニューバー

NSP-1 モニタリングツールの機能を使用するためのメニューが表示されています。メニューのいずれかを選択すると、そのメニューに含まれているコマンドが表示されます。

また、メニューバーのほかに、ステータスリストの各行を右クリックすることによってもメニューが表示され、右クリックした NSP-1 に対して、メニューに含まれているコマンドに対応する機能を使用することができます。

② 全体の状態表示

ここでは、システム全体の現在の状態が表示されます。NSP-1 モニタリングツールでは、NSP-1 の状態を青 (正常) または赤 (エラー) で表示します。システム内のすべての NSP-1 の状態が正常であれば、システム全体も正常で青表示ですが、どこかでエラーが検出されると、システム全体もエラーとなります。

ヒント

NSP-1 モニタリングツールのアラーム通知設定を行うことで、システムにエラーが検出された場合に、警告音を鳴らしたり、自動的に電子メールを送信したりすることができます。

- ◆ アラーム通知設定について詳しくは、「アラーム通知に関する設定を行う」(23 ページ)をご覧ください。

③ エラー検索およびエラー履歴ボタン

エラー検索ボタンは、現在発生しているエラー (赤色の表示) を検索するために使用します。

クリックするたびに、選択されている位置より下でエラーが発生している NSP-1 を検索し、その行をハイライト表示します。最終行まで検索した場合は、リストの先頭に戻ります。

エラー履歴ボタンは、過去に発生したエラーの履歴を確認するために使用します。

クリックすると StatusLog フォルダのウィンドウが開きます。エラー履歴のログファイルは、YYYYMMDD.csv というフォーマットのファイル名で保存されています。例えば、20050101.csv というファイル名は、2005 年 1 月 1 日のログファイルとなります。ここでログファイルを開いて、その日に発生したエラーの履歴を表示させることができます。この機能は、通信や再生の状態など、時間が経つと NSP-1 ステータス管理ウィンドウでは表示されなくなってしまうエラーを、後から確認するのに便利です。

④ NSP-1 のステータスリスト

各 NSP-1 のステータス (状態) の一覧が、通信、再生、機器の 3 種類に分かれて表示されています。NSP-1 の運用休止時間中および起動中など、再生および機器のステータスがわからない場合は、該当する欄は空欄になります。

ここから、個々の NSP-1 の詳細情報を表示させることができます。詳細情報を表示させることで、NSP-1 が運用休止中または起動中かどうかということや、エラーが検出されている場合には、エラーの内容を知ることができます。

- ◆ 詳細情報表示について詳しくは、「NSP-1 の詳細なステータス情報を確認する」(14 ページ)をご覧ください。

通信の状態

各 NSP-1 との通信の状態 (左側) および再生結果の取得状態 (右側) がマークで表示されます。また、NSP-1 の IP アドレス、名称、所属しているグループ (複数のグループに

所属している NSP-1 の場合は、もっとも優先順位の高いグループ) も表示されます。

通信の状態 (左側) は、正常に通信が行われている場合は青色の表示、通信できない場合には赤色の表示となります。また、通信を試みている間は、🚫 のマークが表示されます。再生結果の取得状態 (右側) は、NSP-1 モニタリングツールが NSP-1 から再生結果の取得を行っている間は、📄 のマークが表示されます。

再生状態

各 NSP-1 のスケジュール再生の状態を、青 (正常) または赤 (エラー) で表示します。スケジュール再生を停止してプレビューが行われていると、黄色の表示となります。また、再生に使用されている一日のスケジュールとプレイリストのタイトルもここに表示されます。

機器の状態

各 NSP-1 の機器の状態を表示します。また、NSP-1 のハードディスクの残容量も表示されます。残量欄の 2 つの数値は、左側が動画・オーディオの領域の残容量、右側がその他のデータ領域の残容量を示しています。

NSP-1 再生結果ウィンドウ

NSP-1 のユーザー設定画面で再生結果を保存するように設定しておく、再生の結果がログデータとして各 NSP-1 に記録されます。NSP-1 モニタリングツールは、システムの各 NSP-1 からログデータを収集してまとめて保存することができ、NSP-1 再生結果ウィンドウで過去に行われた再生結果を詳細に確認することができます。

NSP-1 再生結果ウィンドウは、NSP-1 ステータス監視ウィンドウで、リスト上の NSP-1 を右クリックして、メニュー上の [再生結果表示] を選択すると表示されます。

ヒント

NSP-1 再生結果ウィンドウを開いた直後は、再生結果表示画面と再生結果の詳細画面は空欄になっています。

NSP-1 から再生結果を取得し、カレンダー画面で日付をクリックすると、選択した日の再生結果が下図のように再生結果表示画面と再生結果の詳細画面に表示されます。

① NSP-1 ドロップダウンリストボックス 再生結果表示画面 (10 ページ参照)

カレンダー画面 (9 ページ参照)

再生結果の詳細画面 (11 ページ参照)

No.	開始時刻 (予定)	終了時刻 (予定)	インデックス	タイトル	結果	エラーコード	再生回数
1	10:00:00 (10:00:00)	12:00:00 (12:00:00)	052000001	Morning News	●	1001	12
2	12:00:00 (12:00:00)	17:00:00 (17:00:00)	052000002	Afternoon News	●		30
3	17:00:00 (17:00:00)	20:00:00 (20:00:00)	052000003	Evening News	●		18

No.	開始時刻	終了時刻	インデックス	分類	タイトル	結果	エラーコード
1	10:00:00	10:05:00	002000001	Travel Ad	Hawaii Vacations	●	1001
2	10:05:00	10:10:00	002000002	Travel Ad	Canoeing Vacations	●	
3	10:10:00	10:15:00	002000003	Travel Ad	WWI Airplanes-1	●	
4	10:15:00	10:20:00	002000004	Travel Ad	WWI Airplanes-2	●	
5	10:20:00	10:25:00	002000005	Travel Ad	WWI Airplanes-3	●	
6	10:25:00	10:30:00	002000006	Business	New Products	●	
7	10:30:00	10:35:00	002000007	Business	New CD	●	
8	10:35:00	10:40:00	002000008	Business	New MD	●	
9	10:40:00	10:45:00	002000009	Business	New CD	●	
10	10:45:00	10:50:00	002000010	Information	Address	●	

① NSP-1 ドロップダウンリストボックス

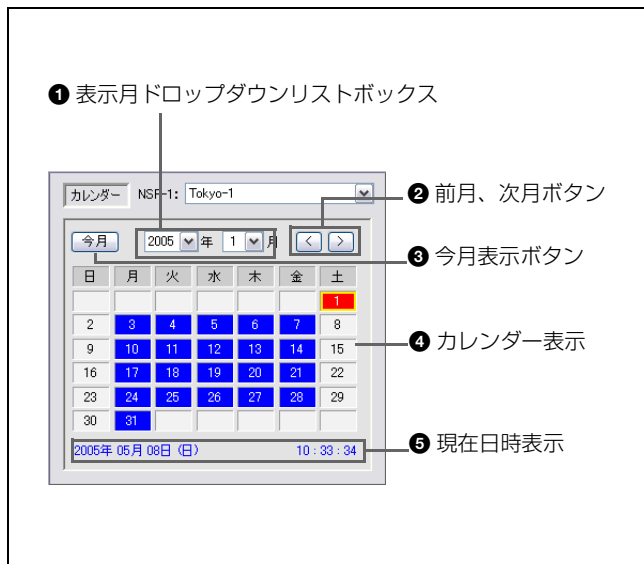
再生結果が表示されている NSP-1 の名称が表示されます。また、ここで別の NSP-1 を選択して、再生結果を確認することもできます。

カレンダー画面

NSP-1 ドロップダウンリストボックスで選択されている NSP-1 の 1ヶ月間の再生結果が日付の背景色で表示されます。

また、ここで詳細な再生結果を表示させる日付を選択することができます。

カレンダーの下には、現在の日時が表示されています。



① 表示月ドロップダウンリストボックス

カレンダーの表示月を選択するためのドロップダウンリストボックスです。年および月を選択すると、表示が切り替わります。

② 前月、次月ボタン

現在表示されている月の、前月または次月を選択します。

③ 今月表示ボタン

クリックすると、他の月の表示になっているカレンダーを、今月の表示に戻すことができます。

④ カレンダー表示

選択されている NSP-1 の 1ヶ月間の再生結果が日付の背景色で表示されます。スケジュール再生が正常に実行された日は青色、再生に何かのエラー（各素材またはプレイリストの再生にエラーが発生した）があった日は赤色となります。グレーの背景色は、NSP-1 からの再生結果の取得が行われていないか、NSP-1 で再生が実行されなかったことを意味しています。

カレンダー上の日付をクリックすると、クリックした日の再生結果の内容を再生結果表示画面および再生結果の詳細画面に表示させることができます。

また、カレンダー画面のどこかを右クリックするとメニューが表示され、NSP-1 から再生結果を取得したり、NSP-1 モニタリングツールに保存されている再生結果のデータを削除したりすることができます。

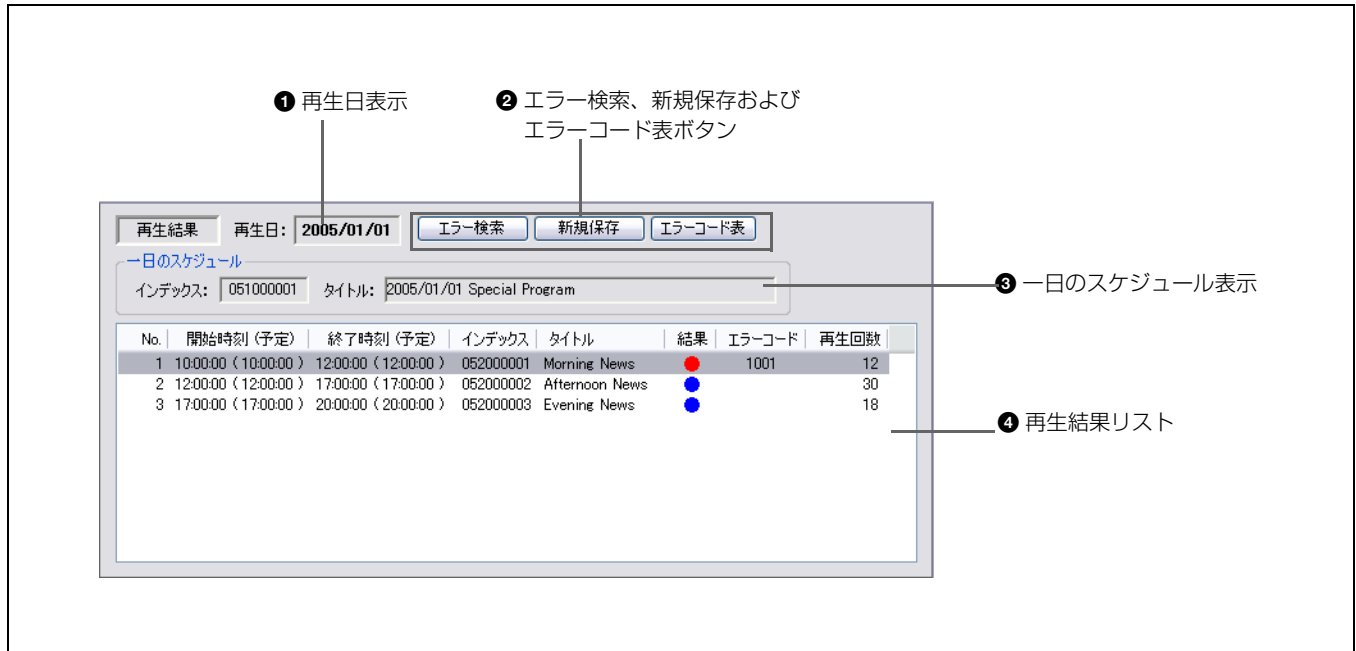
⑤ 現在日時表示

現在の日時を表示しています。

Windows で指定されている日付の表示形式にかかわらず、常に同じ形式で表示されます。

再生結果表示画面

NSP-1 再生結果ウィンドウのカレンダー部分で日付を選択すると、選択した日の再生結果がこの画面に現れます。



① 再生日表示

カレンダー画面で選択した日付が表示されます。表示されている再生結果は、この日のデータです。

② エラー検索、新規保存およびエラーコード表ボタン

エラー検索ボタンは、NSP-1 ステータス監視ウィンドウのエラー検索ボタンと同様に、発生した再生エラー (赤色の表示) を検索するために使用します。

クリックするたびに、選択されている位置より下でエラーが発生したプレイリストを検索し、その行をハイライト表示します。最終行まで検索した場合は、リストの先頭に戻ります。

新規保存ボタンは、選択されている日の再生結果のデータファイルを、任意のフォルダに別のファイルとして保存します。ファイルには、再生結果表示画面には表示されていない項目も含まれています。

エラーコード表ボタンは、別ウィンドウにエラーコードの意味の一覧を表示します。

③ 一日のスケジュール表示

再生結果リストで選択されているプレイリストが指定されていた一日のスケジュールのインデックスとタイトルが表示されます。

途中で一日のスケジュールが差し替えられた場合は、プレイリストを順番に選択することによって、どこで一日のスケジュールが変更されたかがわかります。

④ 再生結果リスト

選択されている日に再生された各プレイリストの一覧が、再生開始および終了時刻と再生結果、再生回数と共に表示されます。

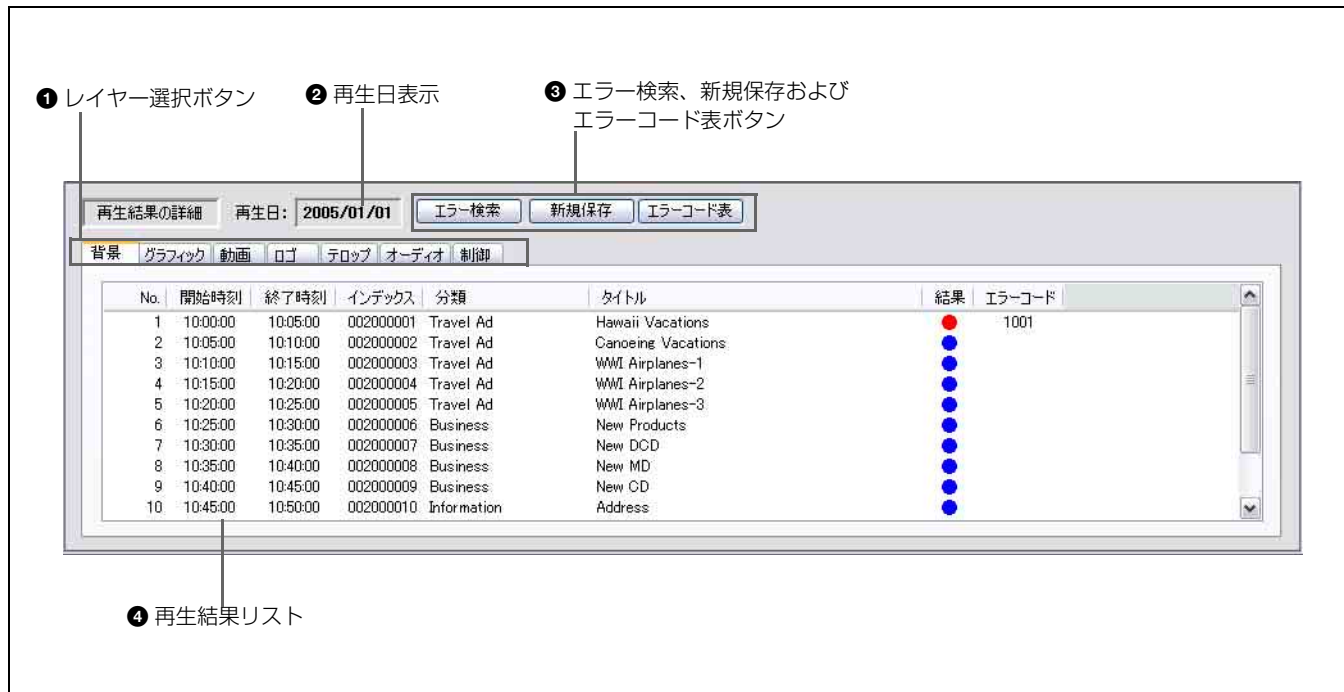
結果欄の青色のマークは正常に再生が行われたことを、赤色のマークは何かエラーがあったことを意味しています。赤色のマークの場合には、エラーの種類を示すエラーコードも表示されます。

ヒント

- NSP-1 は、再生スケジュールが指定されていない時間帯にスクリーンセーバーを再生する場合があります。再生されたものが、BZNP-D1 でスクリーンセーバーとして指定したプレイリストではなく、NSP-1 に組み込まれていたスクリーンセーバーの場合は、再生結果は表示されません。
- プレイリストをプレビューした場合は、プレビューしたプレイリストのデータが表示されますが、素材単独のプレビューが行われた際の再生結果はこの画面には表示されません。素材のプレビュー時の再生結果は、再生結果の詳細画面で確認することができます。

再生結果の詳細画面

NSP-1 再生結果ウィンドウのカレンダー部分で日付を選択すると、選択した日に各レイヤーで行われた再生の結果と、制御の結果が、この画面に現れます。



① レイヤー選択ボタン

表示するデータの種類 (レイヤーまたは制御) を選択します。この図では背景レイヤーが選択されており、背景レイヤー上に表示された静止画の素材の一覧が表示されます。

② 再生日表示

カレンダー画面で選択した日付が表示されます。表示されている再生結果は、この日のデータです。

③ エラー検索、新規保存およびエラーコード表ボタン

エラー検索ボタンは、他の画面のエラー検索ボタンと同様に、発生した再生エラー (赤色の表示) を検索するために使用します。クリックするたびに、選択されている位置より下のエラーを検索し、その行をハイライト表示します。最終行まで検索した場合は、リストの先頭に戻ります。

新規保存ボタンは、選択されているパネルの再生結果のデータファイルを、任意のフォルダに別のファイルとして保存します。ファイルには、再生結果の詳細画面には表示されていない項目も含まれています。

エラーコード表ボタンは、別ウィンドウにエラーコードの意味の一覧を表示します。

④ 再生結果リスト

選択されている日に選択されているレイヤー上で再生された素材の一覧が、再生開始および終了時刻、再生結果と共に一覧で表示されます。再生結果がエラー (赤色のマーク)

であった場合には、エラーの種類を示すエラーコードも表示されます。

結果欄の青色のマークは正常に再生が行われたことを、赤色のマークは何かエラーがあったことを意味しています。

ヒント

- BZNP-D1 でスクリーンセーバーとして指定したプレイリストではなく、NSP-1 に組み込まれていたスクリーンセーバーの再生結果は表示されません。
- 通常のスケジュール再生やプレイリストのプレビュー時と同様、素材単独のプレビューが行われた際の再生結果も、ここに表示されます。

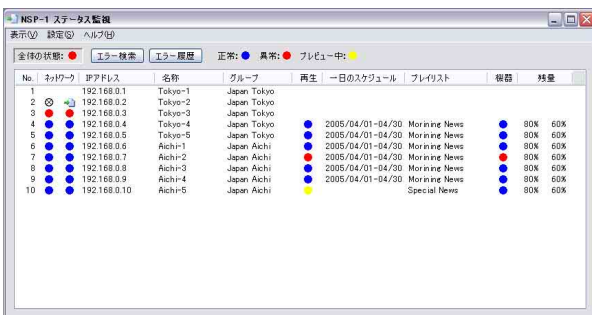
NSP-1 モニタリングツールを起動する

ご注意

NSP-1 モニタリングツールは、NSP-1 の状態を監視、確認するために、システム内の各 NSP-1 とネットワークを介して通信を行います。BZNP-D1 と同時に使用する場合は、BZNP-D1 の運用の妨げにならないようご注意ください。特に、NSP-1 から再生結果を取得する操作は PC に負荷がかかるため、BZNP-D1 の運用中は行わないようにしてください。

1 Windows のタスクバーにあるスタートボタンをクリックして、すべてのプログラム、NSP-1 Management、NSP-1 モニタリングツールを順番に選択します。

下図のように NSP-1 ステータス監視ウィンドウが表示され、操作を行うことができますようになります。



ヒント

- NSP-1 ステータス監視ウィンドウに情報が何も表示されない場合は、NSP-1 モニタリングツールをお使いいただくために必要な、BZNP-D1 と BZNP-DP50 のライセンスを登録し、NSP-1 の設定情報を読み込む必要があります。

- ◆ ライセンスの登録については、「ライセンスを登録する」(20 ページ) をご覧ください。

NSP-1 の設定情報については、「管理を行う NSP-1 の情報を読み込む」(20 ページ) をご覧ください。

- 工場出荷時の初期状態の NSP-1 は、再生結果を記録する設定になっていません。再生結果の確認を行うには、NSP-1 のユーザー設定画面で、再生結果を保存するように設定を変更してください。

また NSP-1 モニタリングツールのほうも、初期状態では、自動的に再生結果のデータを NSP-1 から取得するようには設定されていません。環境設定ダイアログボックスでデータの自動取得に関する設定を行ってください。

- ◆ NSP-1 の設定については、NSP-1 の取扱説明書をお読みください。環境設定について詳しくは、「NSP-1 モニタリングツールの環境設定を行う」(21 ページ) をご覧ください。

NSP-1 モニタリングツールを終了する

- 1 NSP-1 ステータス監視ウィンドウ右上隅にある [×] (閉じる) ボタンをクリックします。

NSP-1 ステータス監視ウィンドウが閉じます。

NSP-1 再生結果ウィンドウなど、他のウィンドウを開いている場合には、それらも自動的に閉じます。

ヒント

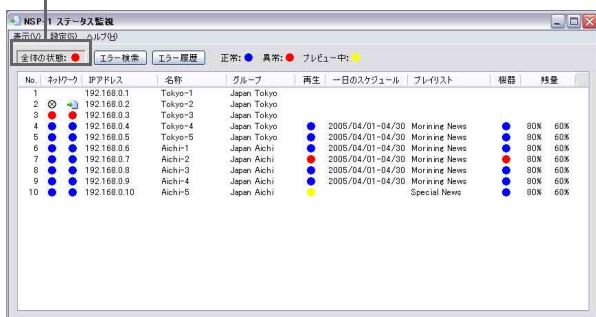
NSP-1 との通信が行われている間に NSP-1 モニタリングツールを終了させようとする、通信を中止して終了するかどうかを確認するメッセージが表示されます。終了させてよいときは、[はい] を選択してください。

システムを監視する

システムの各 NSP-1 の状態は、NSP-1 モニタリングツールの NSP-1 ステータス監視ウィンドウで知ることができます。

正常時は青色のマーク、エラーが検出されると赤色のマークが表示されます。

システム全体の状態



No.	ネットワーク	IPアドレス	名称	グループ	再生	一日のスケジュール	プレリスト	機番	線量
1		192.168.0.1	Tokyo-1	Japan Tokyo					
2		192.168.0.2	Tokyo-2	Japan Tokyo					
3		192.168.0.3	Tokyo-3	Japan Tokyo					
4		192.168.0.4	Tokyo-4	Japan Tokyo					
5		192.168.0.5	Tokyo-5	Japan Tokyo	●	2005/04/01-04/30	Morning News	●	80X 60X
6		192.168.0.6	Aichi-1	Japan Aichi	●	2005/04/01-04/30	Morning News	●	80X 60X
7		192.168.0.7	Aichi-2	Japan Aichi	●	2005/04/01-04/30	Morning News	●	80X 60X
8		192.168.0.8	Aichi-3	Japan Aichi	●	2005/04/01-04/30	Morning News	●	80X 60X
9		192.168.0.9	Aichi-4	Japan Aichi	●	2005/04/01-04/30	Morning News	●	80X 60X
10		192.168.0.10	Aichi-5	Japan Aichi	●	2005/04/01-04/30	Special News	●	80X 60X

ヒント

NSP-1 モニタリングツールのアラーム通知設定を行うことで、システムにエラーが検出された場合に、警告音を鳴らしたり、自動的に電子メールを送信したりすることができます。

エラー検出時に警告音を鳴らすように設定している場合、警告音はリポート再生されます。再生を停止するには、同時に表示されているアラームウィンドウの [停止] をクリックしてください。

◆ アラーム通知設定について詳しくは、「アラーム通知に関する設定を行う」(23 ページ) をご覧ください。

全体の状態として赤色のマークが表示された場合は、ステータスリスト上の通信状態、再生状態、機器状態のいずれかの欄に赤色のエラー表示があります。これによって、

どの NSP-1 にどのような種類のエラーが検出されたかを知ることができます。

管理を行っている NSP-1 の台数が多い場合は、次の「エラー情報を検索する」の手順で検索を行うと便利です。

エラー情報を検索する

1 NSP-1ステータス監視ウィンドウでエラーが検出されている NSP-1 を見つけるには、リストの上にある [エラー検索] をクリックします。

クリックするたびに、選択されている位置より下でエラーが発生している NSP-1 が検索され、その行がハイライト表示となります。最終行まで検索した場合は、リストの先頭に戻ります。

ヒント

エラーが検出されている NSP-1 の詳細情報を表示させ、エラーの詳細を知ることができます。

◆ 詳細情報を表示させる方法については、次の「NSP-1 の詳細なステータス情報を確認する」をご覧ください。

NSP-1 の詳細なステータス情報を確認する

NSP-1 ステータス監視ウィンドウでは、どの NSP-1 にどの種類 (通信、再生、または機器状態) の異常が検出されたかということのみが表示されますが、以下の手順で、個別の NSP-1 の詳細なステータス情報を表示させることができます。

- 1 NSP-1 ステータス監視ウィンドウで、希望の NSP-1 をダブルクリックします。
または、希望の NSP-1 を右クリックし、表示されるメニューの [詳細情報表示] を選択します。

詳細情報表示ウィンドウが開き、選択された NSP-1 の詳細情報が表示されます。

- 2 詳細情報表示ウィンドウの右上隅にある [×] (閉じる) ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。

詳細情報表示ウィンドウを開いたまま、他の操作を行うこともできます。

手動で NSP-1 からステータス情報を取得する

NSP-1 モニタリングツールでは、通常は、一定時間ごとに自動的に各 NSP-1 と通信を行い、ステータス情報を取得するような運用を行います。

ただし、現在の状態を確認したい場合など、手動で個別の NSP-1 のステータス情報を取得する機能も用意されています。自動取得を行わずに、ステータスを確認したいときだけ、手動で情報を取得することもできます。

手動で個別の NSP-1 のステータス情報を取得するには、下記の操作を行ってください。

- ◆ ステータス情報の自動取得の間隔などの設定は、環境設定ダイアログボックスで行います。環境設定について詳しくは、「NSP-1 モニタリングツールの環境設定を行う」(21 ページ) をご覧ください。

- 1 NSP-1 ステータス監視ウィンドウで、ステータス情報を取得する NSP-1 を選択します。
複数の NSP-1 を選択するには、Ctrl キーを押しながら、順番にクリックします。
ある範囲の NSP-1 をすべて選択するには、Shift キーを押しながら、範囲の両端の NSP-1 を順番にクリックします。
すべての NSP-1 を選択するには、NSP-1 ステータス監視ウィンドウを右クリックし、表示されるメニューの [すべて選択] をクリックします。

- 2 選択範囲を右クリックし、表示されるメニューの [ステータス問い合わせ] を選択します。

NSP-1 モニタリングツールは、選択された NSP-1 と順番に通信を行ってステータス情報を取得し、NSP-1 ステータス監視ウィンドウの表示を更新します。

エラーの履歴を確認する

NSP-1 ステータス監視ウィンドウは、各 NSP-1 から最後に取得したステータスを表示しています。このため、一定間隔で自動的にステータスを取得するように設定している場合、再生状態のエラーなどは時間が経つと次のイベントの再生に移ってしまい、エラーが表示されなくなってしまうことがあります。

過去に発生したエラーの履歴を確認するには、次の手順を実行してください。

- 1 NSP-1 ステータス監視ウィンドウで [エラー履歴] をクリックします。

StatusLog フォルダを表示する Windows Explorer ウィンドウが表示されます。

- 2 エラーの履歴を確認する日付のログファイルをダブルクリックします。

例えば、2005 年の 4 月 24 日に発生したエラーの履歴を表示させるには、20050424StatusLog.csv をダブルクリックします。

Windows で、拡張子 .csv のファイルに関連付けられているプログラムが起動し、選択したファイルの内容が表示されます。

このエラーの履歴のファイルは、システムのすべての NSP-1 で共通で、時刻、エラーが発生した NSP-1 の番号と名称、エラーの情報が記録されています。

- 3 エラーの確認が終わり、必要がなくなったら、エラーの履歴ファイルの内容が表示されたウィンドウと StatusLog フォルダのウィンドウを閉じます。

NSP-1 の再生結果を確認する

各 NSP-1 ですで行われた再生の結果を確認するには、NSP-1 再生結果ウィンドウを使用します。

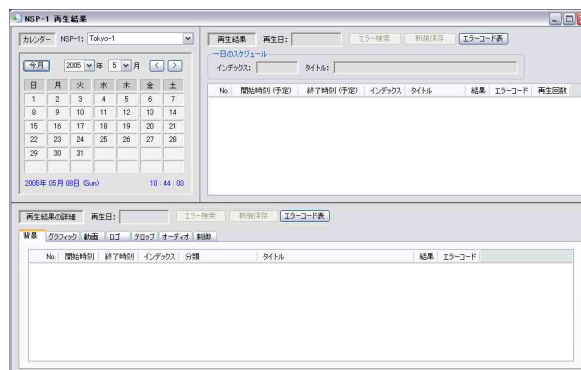
で注意

- 再生結果のデータは、Unicode(ユニコード)に対応していません。このため、Windows の地域と言語のオプションの設定によっては、正しく表示されない文字がある場合があります。
- 工場出荷時の初期状態の NSP-1 は、再生結果を記録する設定になっていません。再生結果の確認を行うには、NSP-1 のユーザー設定画面で、再生結果を保存するように設定を変更する必要があります。

◆ 詳しくは、NSP-1 の取扱説明書をお読みください。

- 1 NSP-1 ステータス監視ウィンドウで、希望の NSP-1 を右クリックし、メニュー上の [再生結果表示] を選択します。

NSP-1 再生結果ウィンドウが表示されます。この段階では、再生結果表示および再生結果の詳細画面にはデータは表示されていません。



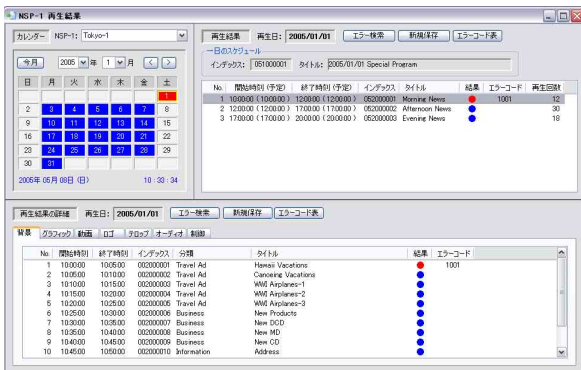
ヒント

NSP-1 再生結果ウィンドウがすでに表示されている場合は、NSP-1 ドロップダウンリストボックスで希望の NSP-1 を選択することができます。

- 2 必要な場合は、新しい再生結果のデータを取得します。カレンダー画面のいずれかの場所を右クリックして、表示されるメニューの [再生結果の取得] を選択してください。

- 3 カレンダー画面で、再生結果を表示させたい日付をクリックします。

再生結果表示画面および再生結果の詳細画面に、選択した日の再生結果が表示されます。



- ◆ NSP-1 再生結果ウィンドウについて詳しくは、「NSP-1 再生結果ウィンドウ」(8 ページ)をご覧ください。

ヒント

カレンダーに希望の月が表示されていない場合は、表示月ドロップダウンリストボックスで希望の年と月を選択するか、矢印の前月、次月ボタンで希望の月を表示させてください。今月のカレンダーを表示させるには、[今月]をクリックすることもできます。

別の NSP-1 の再生結果を表示させるには

カレンダー画面上部の NSP-1 ドロップダウンリストボックスで、希望の NSP-1 を選択し、手順 2 から操作を繰り返します。

エラー情報を検索する

- 1 再生結果表示画面または再生結果の詳細画面で検出されているエラーを見つけるには、それぞれの画面にある [エラー検索] をクリックします。

クリックするたびに、選択されている位置より下にあるエラーが検索され、その行がハイライト表示になります。最終行まで検索した場合は、リストの先頭に戻ります。

ヒント

[エラーコード表] をクリックするとエラーコードの意味の一覧が表示され、検出されたエラーの意味を知ることができます。

手動で NSP-1 から再生結果を取得する

NSP-1 の再生結果を手動で取得するには、下記のいずれかの操作を行います。

ヒント

再生結果のデータを自動的に NSP-1 から取得するように設定していない場合は、設定することをお勧めします。この設定は、NSP-1 モニタリングツールの環境設定ダイアログボックスで行います。


- ◆ 環境設定について詳しくは、「NSP-1 モニタリングツールの環境設定を行う」(21 ページ)をご覧ください。

NSP-1 ステータス監視ウィンドウで

複数の NSP-1 の再生結果を同時に取得することができます。

- 1 再生結果を取得する NSP-1 を選択します。
複数の NSP-1 を選択するには、Ctrl キーを押しながら、順番にクリックします。
ある範囲の NSP-1 をすべて選択するには、Shift キーを押しながら、範囲の両端の NSP-1 を順番にクリックします。
すべての NSP-1 を選択するには、NSP-1 ステータス監視ウィンドウを右クリックし、表示されるメニューの [すべて選択] をクリックします。

- 2 選択範囲を右クリックし、表示されるメニューの [再生結果の取得] を選択します。

NSP-1 モニタリングツールは、選択された NSP-1 と順番に通信を行って再生結果を取得します。再生結果を取得している間、NSP-1 ステータス監視ウィンドウでは、該当する NSP-1 の通信状態欄に  のマークが表示されます。

- 3 取得した再生結果を確認するには、「NSP-1 の再生結果を確認する」(15 ページ) の操作を行い、再生結果を表示させてください。

NSP-1 再生結果ウィンドウで

- 1 再生結果を取得したい NSP-1 の名称が NSP-1 ドロップダウンリストボックスに表示されていない場合は、希望の NSP-1 を選択します。
- 2 カレンダー画面のいずれかの場所を右クリックして、表示されるメニューの [再生結果の取得] を選択します。

NSP-1 モニタリングツールは、NSP-1 と通信を行って再生結果を取得します。

- 3 取得した再生結果を確認するには、カレンダー画面で再生結果を表示させたい日付をクリックします。

再生結果を別ファイルとして書き出す

下記の手順で、現在選択されている日の再生結果のファイルを、NSP-1 から取得して保存されているものとは別のファイルとして保存することができます。

- ◆ 再生結果のデータを、会計システムなど別のアプリケーションで使用する場合は、「再生結果のデータ保存について」（22 ページ）の説明を、あわせてご覧ください。

- 1 プレイリストの再生結果をファイルとして書き出す場合は、再生結果表示画面の [新規保存] をクリックします。
レイヤーの再生結果または制御の結果を書き出す場合は、希望のパネルを表示させてから、再生結果の詳細画面の [新規保存] をクリックします。

名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

- 2 ファイルを保存するフォルダとファイル名を指定して [保存] をクリックします。

選択した再生結果の情報が、.csv という拡張子のファイルとして指定したフォルダに保存されます。
このファイルには、NSP-1 再生結果ウィンドウには表示されていない項目も含まれています。

不要な再生結果のデータを削除する

不要になった再生結果のデータは、下記の手順で、NSP-1 モニタリングツールが動作している PC から定期的に削除してください。保存されているデータが非常に多くなると、PC の動作が不安定になる場合があります。

ご注意

この操作は、各 NSP-1 から再生結果のデータを削除するものではありません。

NSP-1 上では、一定期間が経つと、再生結果のデータは自動的に削除されます。

- 1 特定の NSP-1 から取得した再生結果のデータを削除する場合、希望の NSP-1 の名称が NSP-1 ドロップダウンリストボックスに表示されていない場合は、希望の NSP-1 を選択します。
すべての NSP-1 のデータを削除する場合は、この手順は必要ありません。
- 2 カレンダー画面のいずれかの場所を右クリックして、表示されるメニューの [PC 内の再生結果の削除] を選択します。

PC 内の再生結果の削除ダイアログボックスが表示されます。



- 3 選択されている NSP-1 から取得したデータだけを削除する場合は、選択している NSP-1 オプションボタンを選択します。
すべての NSP-1 のデータを削除する場合は、すべての NSP-1 オプションボタンを選択します。
- 4 期間の始めと終わりの日付を指定します。
ドロップダウンリストボックスのボタンをクリックするとカレンダーが表示されます。カレンダー上でクリックした日付が指定されます。
- 5 [OK] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

6 [はい] をクリックします。

選択した NSP-1 またはすべての NSP-1 の指定した期間の再生結果が PC から削除されます。

NSP-1 の設定画面を開く

NSP-1 モニタリングツールから Web ブラウザーを起動して、NSP-1 の設定画面を表示することができます。

- 1 NSP-1 ステータス監視ウィンドウでは、設定画面を表示したい NSP-1 の行を右クリックし、表示されるメニューの [NSP-1 のブラウザ表示] を選択します。NSP-1 再生結果ウィンドウでは、カレンダー画面のいずれかの場所を右クリックして、同様に [NSP-1 のブラウザ表示] を選択します。

NSP-1 にアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力するためのダイアログボックスが表示されます。

- 2 NSP-1 に設定されている管理者用のユーザー名とパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

Internet Explorer が自動的に起動され、選択した NSP-1 のステータスを表示します。

(他の Web ブラウザーが Windows で Web ページを表示するプログラムとして指定されていても、Internet Explorer が起動されます)

- ◆ NSP-1 の設定画面については、NSP-1 の取扱説明書をお読みください。



この章では、次の設定の操作について説明します。

- ライセンスの登録
NSP-1 モニタリングツールをお使いいただくためには、BZNP-D1(NSP-1 を 10 台まで管理できる有償ソフトウェア)と、BZNP-DP50 のライセンスを少なくとも 1 つご購入いただく必要があります。
BZNP-D1 と NSP-1 モニタリングツールを別々の PC 上で使用する場合は、NSP-1 モニタリングツールにもライセンスキーを入力していただく必要があります。
BZNP-D1 と NSP-1 モニタリングツールを同じ PC 上で使用する場合は、NSP-1 モニタリングツールでのライセンスの登録は必要ありません。
- 管理を行う NSP-1 の情報の読み込み
BZNP-D1 と同様に、NSP-1 モニタリングツールにも各 NSP-1 と通信を行うための情報が必要です。
BZNP-D1 と NSP-1 モニタリングツールを別々の PC 上で使用する場合は、BZNP-D1 で登録した NSP-1 のデータをファイルに書き出して、NSP-1 モニタリングツールに読み込ませる必要があります。
BZNP-D1 と NSP-1 モニタリングツールを同じ PC 上で使用する場合は、この操作は必要ありません。
- NSP-1 モニタリングツールの環境設定
各 NSP-1 のステータス情報や再生結果のデータを自動的に取得するかどうかと、自動的に取得する場合はその間隔を指定します。
また、再生結果のデータを保存する場所を、希望のフォルダに変更することができます。
- アラーム通知に関する設定
システムに何らかのエラーが検出された場合に、警告音を鳴らしたり自動的に電子メールを配信するなど、NSP-1 モニタリングツールの画面を見ていなくてもわかるような設定を行うことができます。

必要に応じてこの章の説明をお読みになり、設定を行ってください。

で注意

NSP-1 モニタリングツールと NSP-1 の通信中に、設定の操作を行うと、通信を中止するかどうかを確認するメッセージが表示されます。通信を中止して設定を行う場合は、[はい]をクリックしてください。

再生結果の取得中だった場合、通信を中止すると、次に再生結果を取得するときに、もう一度すべてのデータを取得しなおすこととなりますのでご注意ください。

ライセンスを登録する

NSP-1 モニタリングツールをお使いいただくためには、BZNP-D1 と、BZNP-DP50 のライセンスをご購入いただく必要があります。BZNP-D1 をインストールした PC で NSP-1 モニタリングツールも使用する場合は、BZNP-D1 でライセンスを登録するだけで NSP-1 モニタリングツールもお使いになれますが、別の PC で使用する場合は、下記の手順で NSP-1 モニタリングツールにもライセンスを登録してください。

- 1 NSP-1 ステータス監視ウィンドウのメニューバーで [ヘルプ] > [ライセンス設定] を選択します。

ライセンス設定ダイアログボックスが表示されます。



- 2 BZNP-D1 のライセンスキー (マスターライセンスキー) を、マスターライセンステキストボックスに入力します。

- 3 [ライセンス追加] をクリックし、表示されるライセンス追加ダイアログボックスに BZNP-DP50 のライセンスキーを入力して、[OK] をクリックします。

入力したライセンスキーがライセンス設定ダイアログボックスに表示されます。

- 4 ライセンス設定ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

ヒント

NSP-1 モニタリングツールを BZNP-D1 とは異なる PC でお使いになる場合は、NSP-1 と通信を行うために、NSP-1 の情報を BZNP-D1 から読み込む操作も必要です。

- ◆ 詳しくは、次の「管理を行う NSP-1 の情報を読み込む」をご覧ください。

管理を行う NSP-1 の情報を読み込む

BZNP-D1 と同様、NSP-1 モニタリングツールもネットワークを介して NSP-1 と通信を行います。このため、管理対象の NSP-1 を登録しておく必要があります。

BZNP-D1 で登録した NSP-1 の情報をファイルに書き出し、そのファイルを NSP-1 モニタリングツールで読み込むことで、BZNP-D1 に登録されている NSP-1 の情報を使用することができます。

ヒント

この操作は次の場合に必要となります。

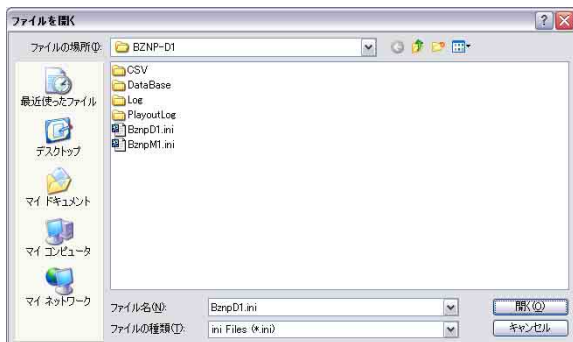
- BZNP-D1 と NSP-1 モニタリングツールを別々の PC 上で動作させる場合
最初に NSP-1 モニタリングツールを起動したときに、情報を読み込ませる必要があります。
- NSP-1 モニタリングツールを起動してから、BZNP-D1 で NSP-1 の登録情報を変更した場合
NSP-1 モニタリングツールは、起動時に NSP-1 の情報を確認します。それ以降に変更した場合は、NSP-1 モニタリングツールを起動しなおすか、情報の読み込みを行って変更を反映させます。
ただし、NSP-1 モニタリングツールは、再生結果のデータを NSP-1 の名称によって管理しています。運用中に NSP-1 の名称を変更した場合、変更前の再生結果が表示できなくなりますのでご注意ください。

- 1 BZNP-D1 の設定メニューにある [設定ファイルの書き出し] で、BZNP-D1 に登録されている NSP-1 の情報をファイルに書き出します。

- ◆ BZNP-D1 の操作については、BZNP-D1 の取扱説明書をお読みください。

- 2 NSP-1 ステータス監視ウィンドウのメニューバーで、[設定] > [設定ファイルの読み込み] を選択します。

ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。



- 3** 手順1で書き出したファイルを指定して、[開く]をクリックします。

で注意

手順1で書き出したNSP-1の情報のファイルではないものを誤って読み込んでしまうと、NSP-1の設定情報が消去され、BZNP-M1とBZNP-D1共に正しく運用できなくなってしまう可能性がありますので、ご注意ください。

NSP-1ステータス監視ウィンドウに、NSP-1のリストが表示されます。

NSP-1 モニタリングツールの環境設定を行う

NSP-1 モニタリングツールの環境設定ダイアログボックスには、次の3つの設定項目があります。

- ステータスの自動監視を行うかどうかと、行う場合の確認の間隔
- 再生結果の自動取得を行うかどうかと、行う場合の取得時刻
- 再生結果を保存するフォルダ

で注意

工場出荷時の初期状態のNSP-1は、再生結果を記録する設定になっていません。再生結果の確認を行うには、NSP-1のユーザー設定画面で、再生結果を保存するように設定を変更してください。

ただし、再生結果を記録するように設定した場合、NSP-1は電源ONまたは運用休止後の起動時に、指定されている保存期間を超えた再生結果を自動的に削除します。保存されているデータ量によっては、起動するまでに数分程度かかる場合がありますので、ご注意ください。

NSP-1の起動に時間がかかると、通信の状態がエラーになったり、再生予定時刻と実際に再生された時刻に差があるというエラーが、再生結果にあらわれたりする場合があります。

また、NSP-1 モニタリングツールの再生結果の自動取得は、初期状態では行わない設定になっています。再生結果を確認する必要がある場合は、自動取得を行うように設定します。

- 1** NSP-1ステータス監視ウィンドウのメニューバーで、[設定]>[環境設定]を選択します。

環境設定ダイアログボックスが表示されます。



- 2** NSP-1のステータスの自動監視を行う場合は、ステータスの自動監視チェックボックスにチェックマークをつ

け、周期スピンボックスでステータスを確認する間隔を指定します。

自動監視を行わない場合は、チェックボックスをクリックします。

ご注意

NSP-1 モニタリングツールは、ここで指定した周期ごとに、管理しているすべての NSP-1 と順番に通信を行ってステータスを確認します。指定されている周期内にすべての NSP-1 の確認が終わらない場合、最後の NSP-1 まで確認せずに、再びリストの先頭の NSP-1 から、ステータスの確認を行います。接続に時間がかかるネットワーク環境で運用している場合や、管理している NSP-1 の台数が多い場合は、長めの周期を設定してください。

- 3** 再生結果を NSP-1 から自動取得する場合は、再生結果の自動取得チェックボックスにチェックマークをつけ、スピンボックスで取得を行う時刻(再生結果の自動取得は、一日に一度行われます)を指定します。

ご注意

NSP-1 から再生結果を取得する操作は PC に負荷がかかります。BZNP-D1 の運用中に自動取得が行われなように時刻を設定してください。また、NSP-1 の毎日の運用休止時間(スリープ時間)とその後の 30 分を避け、運用休止時間が終了した 1 時間程度後の時刻を設定することをお勧めします。

- 4** 必要な場合は、再生結果の保存フォルダを変更します。テキストボックスにパスを入力するか、[参照]をクリックして、フォルダを指定してください。このフォルダの下に、NSP-1 ごとにフォルダが作成され、再生結果が日付ごとにログファイルとして保存されます。

◆ 再生結果のデータについて詳しくは、次の「再生結果のデータ保存について」をご覧ください。

- 5** [OK] をクリックします。

変更した項目が保存され、環境設定ダイアログボックスが閉じます。

再生結果のデータ保存について

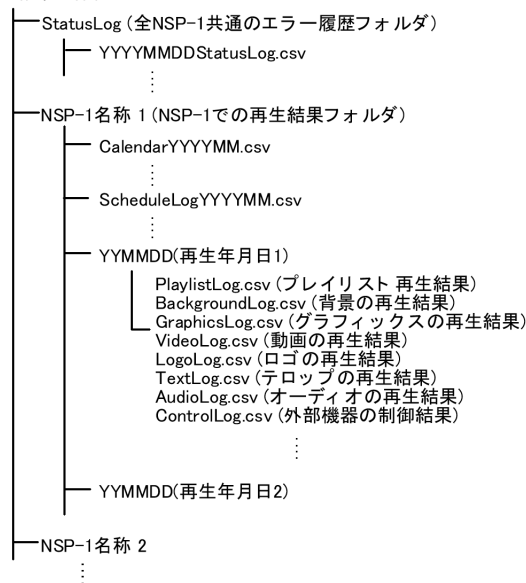
各 NSP-1 から取得した再生結果のデータは、環境設定ダイアログボックスで指定した「再生結果の保存フォルダ」に、次のようなディレクトリ構成の CSV 形式のファイルとして保存されます。

「再生結果の保存フォルダ」以外のフォルダやファイル名、ディレクトリ構成を変更することはできません。

ご注意

- 図のように、再生結果のデータは NSP-1 の名称で管理しています。運用中に NSP-1 の名称を変更した場合、変更前の再生結果が表示できなくなりますのでご注意ください。
- 再生結果は、他のデータとは異なり、Unicode(ユニコード)に対応していません。このため、Windows の地域と言語のオプションの設定によっては、正しく表示されない文字がある場合があります。

再生結果の保存フォルダ



ヒント

NSP-1 再生結果ウィンドウのカレンダーで希望の日付を右クリックし、表示されるメニューで[この日の CSV 保存フォルダを開く]を選択すると、日付に該当する YYYMMDD フォルダを表示する Windows Explorer ウィンドウが表示され、含まれている再生結果のファイル一覧が確認できます。ここでいずれかのファイルをダブルクリックすると、.csv というファイル拡張子に関連付けられているアプリケーションプログラムで、選択した再生結果のファイルを開くこともできます。

各ファイルの先頭には、一行目にファイルを管理するためのバージョン番号、2行目に項目の見出しがあり、3行目以降が再生結果のデータとなります。ファイルには、NSP-1 再生結果表示ウィンドウに表示されない項目も含まれています。

再生結果のファイルのフォーマットについて、詳しく知りたい場合は、「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口にお問い合わせください。

アラーム通知に関する設定を行う

NSP-1 モニタリングツールでは、赤色のマークで表されるような何らかのエラーがシステムに検出された場合に、画面を見ていなくてもわかるよう、警告音を鳴らしたり自動的に電子メールを配信するなど、エラーを通知する設定を行うことができます。

- 1 NSP-1 ステータス監視ウィンドウのメニューバーで、[設定]>[アラーム通知設定]を選択します。

アラーム通知設定ダイアログボックスが表示されます。



- 2 アラーム通知する異常状態欄で、エラーが検出されたときに通知を行う項目を選択し、チェックマークをつけます。複数の項目を選択することができます。ネットワークの異常、再生の異常、機器の異常という3つの項目は、NSP-1 ステータス監視ウィンドウのステータス表示の欄に対応しています。エラーが検出されても通知を行わない項目は、チェックボックスをクリアします。
- 3 通知手段欄で、エラーを通知する手段を選択し、チェックマークをつけます。複数の項目を選択することができます。
- 4 通知手段欄で選択した項目に応じて、必要な設定を行います。

メールを選択した場合は、下記の詳細欄の設定を行います。

設定項目	内容
表題	送信されるメールの表題(件名)を指定します。
送信先	メールの宛先のアドレスを指定します。
アドレス	NSP-1 モニタリングツールのアドレスを指定します。このアドレスが、送信されるメールの差出人のアドレスとして表示されます。
SMTP サーバー	メールの送信に使用する SMTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。認証が必要な SMTP サーバーを利用してメールを送信することはできませんので、ご注意ください。

サウンドを選択した場合は、サウンド設定欄の[参照]をクリックして、エラーが検出されたときに再生するサウンドのファイル(.wav ファイル)を指定します。

ヒント

エラー検出時には、この警告音がリピート再生されます。警告音を停止するには、同時に表示されているアラームウィンドウの[停止]をクリックしてください。

プログラムを選択した場合は、プログラム設定欄の[参照]をクリックして、エラーが検出されたときに実行するプログラムを指定します。

- 5 [テスト]をクリックして、通知が適切に行われることを確認します。
- 6 [OK]をクリックします。

設定が有効になり、アラーム通知設定ダイアログボックスが閉じます。

ご注意

- エラーが検出された際にプログラムを実行するように設定する場合は、そのプログラムが BZNP-D1 の運用や NSP-1 の再生などに影響を与えないよう、ご注意ください。[テスト]をクリックして設定を確認する際にも、ご注意ください。
- 一度に大量の通知が行われることを避けるため、別のエラーが検出されても、エラー通知後 10 分間は次の通知は行われません。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>